2018年9月16日　　No. 2524

# 週　報

日本キリスト教団

みなみやま

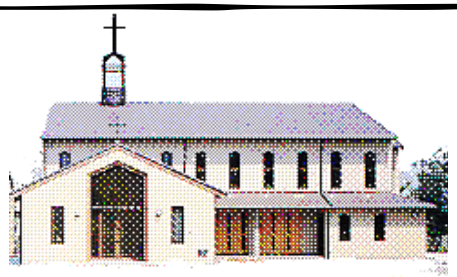
# 南 山 教 会

**＜2018年間聖句＞**

**「遣わされないで、どうして**
**宣べ伝えることができよう」**
**(ローマの信徒への手紙10章15節)**

**＜2018年主題＞**

**恵みを分かち合おう**



*Since 1947. 8. 1.　創立71周年*


〒470-0111
愛知県日進市米野木町南山983-16
（愛知牧場内）
牧　師 村山盛芳
伝道師 本間優太

TEL 0561-73-6781　FAX 0561-76-3005
教会メールアドレス　minamiyama@mb.ccnw.ne.jp
HP　www.mb.ccnw.ne.jp/minamiyama/


## 先週の説教より
## 「恵みをささげる」
### コリントの信徒への手紙二９章６節-15節

エルサレム教会は経済的に貧しく困窮していました。パウロは異邦人の諸教会に向けて、献金を募りました。エルサレム教会と異邦人教会の関係を改善させて、キリスト教会全体の一致を計ろうとするパウロの配慮でした。

パウロは、献金を種蒔きにたとえています。ささげるとは「蒔く」ことであって、失い手放すことではありません。種蒔きの仕方で、その収穫は決まります。「わずかしか」は「しぶしぶと」「けちけちと」という意味です。「豊かに」とは「好意に満ちて」とも訳せます。惜しんで、しぶしぶ・けちけちとささげる人は収穫もそのようになり、逆に惜しまないで好意に満ちてささげる人は収穫も喜びに溢れるということです。仕方なく強制されてささげるのではなくて、各自が「こうしよう！」と心に決めたとおりに、喜んで与える人を神は覚えられ、愛され、それは祝福となります。献金はその額ではなくて、私達の態度や心のあり方が問われているのです。

１５節においてもパウロは、神のすばらしい「贈り物」へと目を向けさせます。それは、イエス・キリストご自身です。私達は贈り物を自分に贈られたものとして受け取り確信しなければ、その贈り主なる神に、感謝と喜びをもってささげることは出来ません。

神ご自身が、私達を愛するがあまり、独り子であるイエス・キリストを十字架につけられたのです。この神の愛がまず先行します。自己犠牲そのものである、この神の愛に私達が迫られ押し出されなければ、心からのささげものは出来ません。献金の意義は、イエス・キリストが私達を富ませるために、自ら貧しくなられたことを思い、惜しむ気持ちからではなく喜んでするところにあります。主が貧しくなられたのだから私も貧しくなろうとするところに、喜んでささげる思いが与えられるのです。

（村山盛芳牧師）

二〇一八・九・一六　午前一一時　No.二五二四

聖霊降臨節第一八主日

前　奏
頌　栄　二九（天のみ民も）
主の祈り
交読詩編　九六編一～九節（一〇六頁）
讃美歌　五一（愛するイエスよ）
聖　書　ヘブライ人への手紙
　九章二三節～二八節（新四一二頁）
祈　祷
讃美歌　四五九（飼い主わが主よ）
信仰告白　（使徒信条）
説　教　「贖われたものの集まり」
祈　祷　村山盛芳牧師
今週の誕生者のための祈祷
讃美歌　五一三（主は命を）
献　金　六五一一
派　遣　九一（神の恵みゆたかに受け）
後祝祷
後　奏

…　報　告　…

高齢の方や体調がすぐれない方は、お座りのままで構いません。共に礼拝しましょう。